

きつと忘れないだろう。かん国の人たち、かん国の仲間たち、最後まで笑顔がありがとう。

八月二十一日、国立博物館見学。かんこくの人たちは、私たちをみてあう人あう人ふりかえった。博物館には、いろいろな物が展示されていたがそれはふしぎと日本の物ににっていた。石器、土器、青銅器などである。その他、耳かざり（イヤリング）、かんむり、くびかざり（ネックレス）などは金の色がそのままのこっていた。あと曲玉などもあった。まるで日本の博物館にいるような気がした。しかし、昔は、かんこくの方が技術が進んでおり日本の方がおとっているような気もした。それはきのせいだろうか。残念ながら、館内での、さつえいは禁止で写真はとれなかったが私はこの目に焼きつけてきた。その中でもかんむりや耳かざりはわすれられませんが。石ぼうちょうや、おの、日本にあったものと同じもの、もちろんおぼえている。

まりかわらないように思えて残念。そういえば、二十一日の高速道路も日本のふつうの道路と全然かわらなかつた。

セマウル号の中では、みんなほとんど、ねていたが、私はぜんぜんねむくなく、男子のさわぐのを見物していた。外を見ると、田がずっと広がり、ぼつんぼつんと建て物がたっていた。それをみたるとたん私の目に、日本の家がうかんた。私のすんでいる所は、ほんとうにいなかで、このときとまったく同じ風景だった。この時から、私は家が、日本がこいしくなつた。

八月二十四日の朝五時少しすぎ、
「やったあ。」

私はとても喜んだ。日本がきりのおくに見えはじめたのだ。でも私は、なぜか日本がはじめてくる国のように思えたのだ。きつと、日本を外から見るのは、はじめてだったからだろう。日本の空気をむねいっばいすいこんでかんこくの船からおりていった。港へは父がむかえにきてくれた。解団式をおわって友だちとわかれを言うてから町のバスで油谷町まで帰っていった。今でも目にうかぶのは、かんこく、そして日本の友だちの笑顔です。



韓国の旅

大平小六年
岡林宏之

ぼくは、TYS少年の船で町内の児童生徒代表の一員として韓国に行きました。韓国と日本とちがう所は、交通と食事が主にちがいました。交通では自動車の運転席が左にあり、走る場所も右で、道路の幅が広かったです。ソウルでは車がこんでいて、人が道路をわたるには、道路は危ないので地下道を通ってわたります。食事では、日本はごはんがよく出ます。でも韓国は、キムチがよく出ました。また、食べ方で、左手でお皿を持ってはいけなないのでしるとかはスプーンで飲みます。日本とは、まったくちがいます。人の顔はよく似ています。しか

し、建物は、日本とちがい一階建ての家はありませんでした。ソウルではビルだらけで日本の東京みたいでした。日本の道路といえば空きカンだらけだけど、韓国はごみ一つありませんでした。それは、すてるそばつ金とられるからです。これは日本がまねたらしいなと思えました。こういう問題もあるのではおたがいの国を知り合つて良いところをまねたり、悪いところをなくせばよい国ができそうです。でも日本と韓国は、おたがい進んでいるもの、いないものもあるのでは手を取り合つて、仲良くして、両国ともどもにいろいろな事を教え合つて、いい国にしたいです。また朝鮮半島が統一できるように協力してあげて世界の輪が広がるようにしてあげたいです。そのためには、日韓友好で両国の関係をもっと深めていきたいと思ひます。

ぼくが、一番心に残っているのは、やっぱり交流会です。いろいろな韓国の人と遊んだりゲームをしたりして、楽しかったです。言葉は通じないけど心をつなぐればこういうふうにできるんだと思ひました。また、歌も歌つたりしました。大変だったことは、帰りの時、台風のために出発がおくれて九時になったけど、下関についたのは、変わりませんでした。でも、海は波が高かつたので、船がグラグラゆれました。韓国が見えなくなつたころは、立っていても足元がふらつきます。だから、よいどめを飲みました。が、ねころがっているうちにねてしまいました。下関には、むかえにきている人いっぱいでした。むかえには、お母さんと妹が来てくれました。つかれていたのか、バスの中でねむつてしまいました。いろいろなおみやげで、みんな喜んでくれたので良かったです。いい旅行になりました。

この旅行のけいけんを生かし、自分たちの町、県、国、そして世界を良くし、全部の国が手を取り合うような世界を作りたひです。

